

Tutorial:

Fujipress Journal LuaLaTeX クラスファイルの使い方 (*fujipressarticle.cls*)

Fujipress Editorial Office

Fuji Technology Press Ltd., E-mail: webmaster@fujipress.jp, <https://www.fujipress.jp/>
[version 2024/07/18]

このガイドは、富士技術出版発行の論文誌 JRM, JACIII, JDR, IJAT 用のクラスファイル *fujipressarticle.cls* のチュートリアルです。

1. まえがき

このクラスファイル(*fujipressarticle.cls*)は、富士技術出版株式会社発行の論文誌に掲載される論文を作成するために専用の class file として作成されたものです。LuaLaTeX を対象としており、fontspec パッケージを使用しています。このクラスファイルは当社論文誌の組版体裁に従って調整していますので、クラスファイルの変更は一切しないでください。

LuaLaTeX 用のクラスファイル:

fujipressarticle.cls 論文用クラスファイル
fujipressfont.clo クラスファイルに付属するファイル

補助用の *fujipressfont.clo* は、*fujipressarticle.cls* が正常に働くため必要ですので *fujipressarticle.cls* と同じフォルダー内においてください。

1.1. このガイドの構成

2章ではそれぞれ英語の論文の原稿のため定められている書式と固有の注意点について述べます。4章は図表の注意で、ファイルの取り込みに関する規定などを述べます。5章は数式に関する注意です。7章は参考文献に関する注意点で、最後の8章は提出するファイルに関して述べます。

1.2. 日本語を入力する場合

テンプレートファイルのプリアンブルに記載の下記の2行について、コメントアウトを外し有効化してください。

```
\usepackage{luatexja-preset}  
\ltjsetparameter{jacharrange={-2,-3}}
```

2. 英語論文の形式

投稿される場合にはクラスファイルとして *fujipressarticle.cls* を使用してください。投稿される雑誌の略号を **Table 1** から選び、オプションとして [] 内に指定してください。

Table 1. 論文誌と略号

論文誌名	略号
Journal of Robotics and Mechatronics	JRM
Journal of Advanced Computational Intelligence and Intelligent Informatics	JACIII
Journal of Disaster Research	JDR
International Journal of Automation Technology	IJAT

Table 2. 原稿種とオプション名の対応

原稿種	オプション名
Paper	paper
Research Paper	researchpaper
Technical Paper	technical
Review	review
Letter	letter
Report	report
Development Report	development
Survey Report	survey
Note	note
Material	material

原稿種については **Table 2** に示した種類の中から選び、オプションを指定してください。

例えば、Journal of Robotics and Mechatronics, paper の場合、次のようになります。

```
\documentclass[JRM,paper]{fujipressarticle}
```

2.1. 原稿の書き方

原稿の全体構成は、このガイドの最終ページの原稿の校正(例)をご覧ください。

* コマンドの意味と用法

```
\title{English title}
```

タイトル（英語）を書きます。前置詞、接続詞、文中冠詞等を除き単語の先頭文字を大文字にします。タイトル中に改行\\を指定すれば、タイトル中で改行できます。

`\author{著者のリスト}`

`\author{First author, ..., and last author}`のように著者のリストを書きます。所属が異なる異なる著者がいる場合には、対応を付けるために著者のあとに

`\author1*, and author2**`

のように asterisk 記号を上付きでつけてください。全員が同じ所属であれば必要ありません。また、最後の著者の前には“and last author”としてコンマも忘れないでください。

`\address{アドレスのリストと e-mail address}`

のようにして、著者の所属と住所、E-mail address を書きます。複数の著者が異なる所属である場合には `\author` で定義した asterisk 記号を以下のように入れてください。

```
\address{%
  $^*$Fuji Technology Press Ltd.,
  Ichigo Otemachi North Bldg. 2F\\
  1-15-7 Uchikanda, Chiyoda-ku,
  Tokyo 101-0047, Japan\\
  E-mail: webmaster@fujipress.jp
  $^{**}$ (2 番目のアドレス)
  ... }
```

`\markboth{ヘッダー著者名}{ヘッダータイトル}`

ヘッダーに出力する著者名とタイトルを定義します。姓と名の頭文字の間にコンマを入れてください。著者が 3 人以下の場合は以下のように書きます。

`\markboth{Tanaka, K. and author2}{title}`

著者が 3 人を越える場合は、1st author のイニシャルのあとに“et al.”を付けてください。

`\markboth{Tanaka, K. et al.}{title}`

タイトルは基本的には `\title` で指定したものと同じですが、改行などの微調整をすることができます。JRM または JACIII に投稿される場合は 90 文字程度に縮めてください。

`\pagestyle{fujipressarticle}`

`fujipressarticle` ページスタイルを読み込むために必要ですので必ず指定してください。

`\maketitle`

`fujipressarticle` フォーマットでタイトルを出力します。

`\begin{abstract} ~ \end{abstract}`

アブストラクトを書くための環境です。

`\begin{keywords} ~ \end{keywords}`

keyword を書くための環境です。各 keyword は以下の

ようにコンマで区切って半角のスペースを空けてください。keyword は 5 個までです。keyword は基本的に小文字で入力してください。

keyword1, keyword2, keyword3

`\acknowledgments`

謝辞があれば、`\acknowledgments` の次の行に記述します。

3. ヘッドライン（見出し）

タイトル、セクション、サブセクションなどの見出し中の最初の一字は大文字にします。尚、前置詞や接続詞、冠詞は大文字にしません。

4. 図表

図表の出力位置は原則として上に集めています。図のキャプションは図の下に、表のキャプションは表の上に書いてください。

```
\begin{figure}[t]
  \centering
  \includegraphics[width=5cm]{./fig/fig.pdf}
  \label{fig1}
  \caption{図の説明文...}
\end{figure}
```

```
\begin{table}[t]
  \centering
  \caption{表の説明}
  \label{table1}
  \renewcommand{\arraystretch}{1.2}
  \begin{tabular}{lcr}
    \hline
    (表の内容)
    \hline
  \end{tabular}
\end{table}
```

取り込みが可能な図の形式は *pdf*, *png* と *jpeg* ファイルです。*png* や *jpeg* などのラスター画像について解像度は 300~450ppi が適しています。取り込みには *graphicx* パッケージをお使いください。プリアンブルに下記の記述を追加してください。

`\usepackage{graphicx}`

図のファイルは、ソースファイル (tex ファイル) を置いているフォルダーの下に `fig` というサブフォルダーを作成して保存してください。フォルダー構造については、8. ファイルの提出で詳しく述べます。

図や写真の取り込みについてのその他の注意点です。線画は、文字の大きさや線の太さが、本文の文字の大きさとバランスが取れるような大きさで取り込んでください。写真およびスクリーンを多用した編状のパターンは著者のプリンタと印刷会社の機器の解像度の違いなどによって、黒くつぶれたり、意図しない線が見える場合があります。

ます。

図表の番号を本文で参照する際には

段落冒頭の場合 `\textbf{Figure 1}` `\textbf{Table 1}`

段落中の場合 `\textbf{Fig. 1}` `\textbf{Table 1}`

のように `\textbf` を用いてください。

5. 数式

アメリカ数学会 (AMS) の AMS-TeX パッケージ `ams-math` および `unicode-math` を使用しています。数式は文書の幅をはみ出しやすいため、特に注意してください。

6. %や°Cについて

American English format で使用される “closed style” に従って、数値と%や°Cの間は詰めて記述してください。

パーセント： 10%

度 (degree)： 10°C

地理座標： N 35°21'14”

7. References (参考文献) および Supporting Online Materials

7.1. BibTeX を使わない場合

本誌の `\bibitem` の記述は以下のとおりです。出来る限り doi の記述もお願いします。doi は文献の最後にご記入ください。

```
\bibitem{jrm:86} A. Author et~al.,
  ``Title of your paper,' J. Robot.
  Mechatron., Vol.0, No.0, pp. 00-00, 20XX.
  \url{https://doi.org/10.20965/jrm.0000.p00}
```

掲載順は、本文中での引用順です。文献を複数引用する場合、[3][4], [3][4][5][6] の様にせず [3,4][3-6] のようにまとめてください。

プレアンブルに `\usepackage{cite}` と記述して `cite` package を使用しますと、

```
\cite{ref:1,ref:2,ref:3}
```

のようにすれば [1-3] と表示されます。

Supporting Online Materials につきましては、`onlinematerials` 環境内に `\bibitem` を記述してください。`\bibitem[a]{...}` のようにラベルオプションに `a,b,c...` を指定しますと、引用文献番号が `[a],[b],[c]...` になります。

```
\begin{onlinematerials}{99}
  \bibitem[a]{jrm:24}
  ``JRM Website.'
  \url{https://www.fujipress.jp/jrm/ }
  [Accessed May 1, 2024]
\end{onlinematerials}
```

本文中では `\cite{jrm:24}` のように記述して引用してください。

7.2. BibTeX を使う場合

原稿作成時には、`fujipressbib.bst` を指定して下さい。参考文献の所定の箇所に

```
\bibliography{refdata} %filename of .bib
\bibliographystyle{fujipressbib}
```

と指定します。`fujipressbib.bst` はテンプレートファイルと同階層に保存されています。

データベースファイル (`refdata.bib`) の例を下記に示します。

```
@Article{jrm:86,
  title = {Title of your paper},
  author = {A. Author et~al.},
  journal = {J. Robot. Mechatron.},
  volume = {0},
  number = {0},
  pages = {00--00},
  year = {20xx},
  doi = {10.20965/jrm.0000.p00}
}
```

```
@Book{tex:1,
  title={LaTeX 2e for WINDOWS},
  author={Y. Otobe, and S. Eguchi},
  year={1997},
  publisher={Soft Bank Company}
}
```

```
@Online{jrm:24,
  title={{JRM} Website},
  url={https://www.fujipress.jp/jrm/},
  urldate={May 1, 2024}
}
```

Supporting Online Materials にも BibTeX を使用される場合は、`multibib` パッケージを使用します。テンプレートファイルのプレアンブルに記載の下記の2行について、コメントアウトを外し有効化してください。

```
\usepackage{multibib}
\newcites{Online}{Supporting Online Materials:}
```

本文中の引用は `\citeOnline{jrm:24}` のように記述します。引用文献リストの後に、下記の記述を追加し Supporting Online Materials のリストを出力させます。

```
\bibliographystyleOnline{fujipressbib}
\bibliographyOnline{refdata}%.bib filename
```

引用する web サイト等は、文献とは別の bib ファイルに記述することも可能です。例えば `refonline.bib` ファイルに記述した場合、`\bibliographyOnline{refonline}` としてください。 `multibib` を使用する場合は `bibtex` を文献用に1回、Supporting Online Materials 用に1回、計2回実行する必要がありますのでご注意ください。

BibTeX を使用した原稿で pdf を作成される場合、本文中で引用された Supporting Online Materials の引用番号は `[Online1],[Online2]` のように、リスト内の引用番号は `[1],[2]` のようになりますが、そのままご提出ください。`bb`, `bib` ファイルも合わせてご提供ください。

8. ファイルの提出について

ここではファイルの提出の際の注意点を挙げます。原稿の TeX ファイルは、メインのファイルに `\include` または `\input` するのではなく、必ず 1 本にまとめてください。著者独自のマクロは原則として使わないでください。必要やむを得ない場合には使ったマクロのコンパイルに必要なソースコードを必ず添付してください。

一般サイトにはないパッケージを使用したときは必ず原稿と共に使用したスタイルファイルを添付してください。ただし、最終組版の段階でそれらパッケージが使えなくなることもあります。特殊なパッケージを使用される場合は十分な配慮をお願い致します。

BibTeX をご使用の場合は、*bib* ファイルおよび生成される *bbl* ファイルも必ず添付してください。

提出すべきファイルには以下のような *directory* 構造を作ってください。ソースファイルを置いた *directory* の下に *fig* という *subdirectory* を作成して、その中に *pdf*, *png*, *jpeg* などの画像ファイルを配置してください。

- *tex* ソースファイル (main directory)
- *pdf*, *png*, *jpeg* などの画像ファイル (*./fig*/内)
- *bbl*, *bib* ファイル (必要な場合) (main directory)

原稿および図などのファイルの提出に関しましては富士技術出版株式会社ホームページにある各論文誌内の「著者の皆様へ」にも記載がございます。

9. その他

使用される画像につきましては、解像度を適宜調整させていただきます。

投稿時には下記のコマンドは入力不要です。論文が採録されて、掲載号が通知されたのち正しい巻と号やページ番号を指定します。

```
\setcounter{page}{page number}
\SetVolume{volume}
\SetIssueNo{issue number}
\SetPubYear{publication year}
\dates{2000/00/00}{2000/00/00}
```

原稿の構成 (例)

```
\documentclass[JRM,paper]{fujipressarticle}
\usepackage{graphicx}

\begin{document}
  \pagestyle{fujipressstyle}

  \title{英語タイトル}
  \author{ローマ字著者名一覧}
  \address{ローマ字読み address}
  \markboth{header 出力の著者名}{header 出力のタイトル}
  \maketitle

  \begin{abstract}
    (abstract)
  \end{abstract}

  \begin{keywords}
    (keywords)
  \end{keywords}

  (原稿の内容)

  \acknowledgments
    (acknowledgments)

  \begin{thebibliography}{??}
    \bibitem{}
    \bibitem{}
  \end{thebibliography}

  \begin{onlinematerials}{??}
    \bibitem{}
    \bibitem{}
  \end{onlinematerials}

\end{document}
```